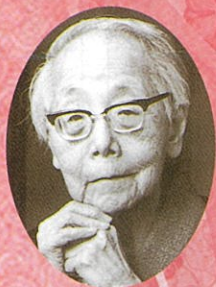




野上弥生子文学記念館



〈国指定 登録有形文化財〉



野上弥生子文学記念館

【国指定 登録有形文化財】

大分県臼杵市浜町538

☎0972-63-4803



AM9:30~PM5:00

入館料

- ・ 大人（高校生を含む）……………310円
- ・ 小人（小・中学生）……………150円

4施設共通券

- 国宝臼杵石仏 ● 稲葉家下屋敷
 - 吉丸一昌記念館 ● 野上弥生子文学記念館
- 4施設共通券があります。

団体割引

20人以上100人未満 大人250円・小人120円

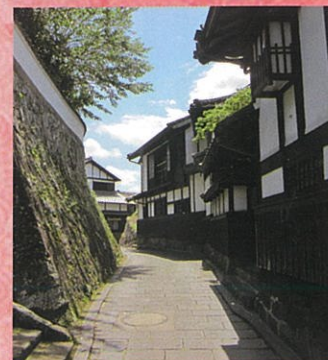
臼杵市観光情報協会 ☎0972-64-7130

臼杵市おもてなし観光課 ☎0972-64-6080

臼杵石仏事務所 ☎0972-65-3300

旧臼杵藩主稲葉家下屋敷 ☎0972-62-3399

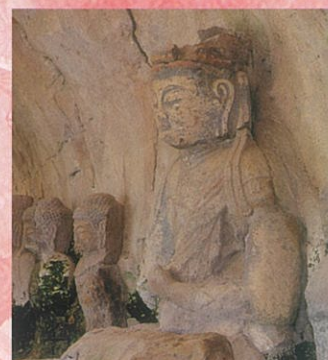
吉丸一昌記念館(早春賦の館) ☎0972-63-7999



二王座歴史の道



龍原寺(三重の塔)



国宝 臼杵石仏

野上弥生子の ふるさと臼杵

戦国時代、キリシタン大名大友宗麟の庇護の下、キリスト教が栄え、天然の良港に恵まれた臼杵には、明や南蛮からの貿易船等が多く渡来し、異国情緒あふれる町として活気に満ちていました。

その後も商人が行き交う国際都市として栄えました。

近年もその城下町の佇まいを残した町づくりが行われています。

野上弥生子 文学ひと筋の生涯

野上弥生子は、明治十八年、酒造業を営む
小手川角三郎とマサの長女として生まれました。

弥生子は学校教育のほか、国文・漢文の古典と英語の個人教授を受ける一方、
自家の周辺で郷土色豊かな幼少期を送りました。

十四歳で勉学のため上京し、明治女学校に入學。

卒業後、同郷の野上豊一郎と結婚しました。夫の文学的環境の中で自己を啓蒙、

また『青鞥』の創刊に協力し、女性の自立の方向を模索しました。

記念館には、少女の頃からの直筆原稿・遺品など約二百点を展示しています。

少女時代、明治女学校、結婚の頃



父 小手川角三郎



母 マサ



学友と(明治36年) 前列左/弥生子

漱石門下、海神丸の頃



夏目漱石

海神丸



『明暗』と夏目漱石書簡(明治40年1月17日)

「明暗」は、夫の師夏目漱石から長文の
批評と励ましを受け、以後、漱石門下生
として漱石の人生観、文学観を直接に聞
くほか、芥川龍之介など多くの文人と交
わりました。

漱石没後も、漱石一門のもつ教養主義
や文化主義に導かれて創作を続け、極限
状況の人間を描いて、彼女の代表作の一
つに数えられる『海神丸』、赤穂浪士の復
讐に新解釈を施す『大石良雄』などをも
って大正期の短編小説に新境地を開き
ました。

他方、戯曲や童話も執筆し、この分野
でも古今東西の文学に対する学識と造
詣の深さを見せました。

「真知子」～「迷路」～晩年

大正末期から昭和にかけて、弥生子の時代を見つめる思索は深まり、左翼運
動家の姿を描いた『真知子』をはじめとする一連の作品を発表。昭和二年、転向
した青年の苦悩を描り下げた大作『迷路』に着手しました。
戦後は民主主義の立場から積極的に発言を続ける一方『迷路』の完成に打ち
込み、昭和三年、二〇年の歳月をかけて完結しました。
喜寿の年に生涯の傑作『秀吉と利休』を執筆、さらに中編『笹』『鈴蘭』を発表、
その筆力はいささかも衰えず、八七歳で長編『森』にとりかかりましたが最終章
をわずかに残して、昭和六〇年九九歳で逝去しました。

野上弥生子の略歴

明治一八年	(一八八五)	五月六日、大分県北海郡白杵町に生まれる。本名ヤエ。
明治二四年	六歳	四月、白杵尋常高等小学校に入學。
明治三三年	一五歳	上京。明治女学校に入學。
明治三五年	一七歳	同郷の野上豊一郎が第一高等学校に入學、豊一郎と交際が始まる。
明治三九年	二二歳	三月、明治女学校高等科卒業。
明治四〇年	二三歳	八月、豊一郎と結婚。習作『明暗』に着手。
明治四三年	二五歳	二月、漱石の紹介で処女作『縁』を『ホトトギス』に発表。
明治四四年	二六歳	四月、『母上様』(ホトトギス)発表。
明治四四年	二六歳	九月、『青鞥』創刊。寄稿協力。
大正二年	二八歳	七月、漱石の序文を付けて『伝説の時代』を高文堂から刊行。九月、次男茂吉郎出生。巢鴨町上駒込三九に転居。
大正五年	三二歳	一月、三月、二人の小さいウアガボンド『読売新聞』連載。四月、戯曲『放火殺人犯』(中央公論)発表。二月、小説集『新しき命』を岩波書店から刊行。二月、漱石死去。
大正十一年	三七歳	四月、『小説六つ』を改造社から刊行。
大正一二年	三九歳	二月、『海神丸』を春陽堂から刊行。
大正一三年	四一歳	九月、『大石良雄』(中央公論)を発表。
大正一四年	四三歳	八月、『真知子』(改造)の連載が始まる。
昭和二年	五二歳	十一月、『迷路』(中央公論)を発表。九月、一六六、六六、婦人公論の『巻頭言』を担当。戦後も二年三月、三二年二月に担当。
昭和一四年	五四歳	渡欧中、第二次世界大戦勃発にあい、米国を回って、十月、帰国。
昭和一九年	五九歳	この秋から山荘に疎開。
昭和二四年	六四歳	十一月、『迷路』続編の連載が始まる。
昭和二五年	六五歳	十一月、二七、二六、二五『野上弥生子選集』全七巻を中央公論社から刊行。
昭和二七年	六七歳	二月、豊一郎急逝。
昭和三三年	七三歳	十一月、『迷路』の連載完結。
昭和三七年	七七歳	十一月、『迷路』第六部を岩波書店から刊行。
昭和四〇年	八〇歳	二月、『真知子』によって読売文学賞受賞。
昭和四一年	八一歳	一月、『秀吉と利休』(中央公論)連載開始。翌々年、女流文学賞受賞。
昭和四四年	八四歳	十月、文化功労者に選ばれる。
昭和四六年	八六歳	六月、『鈴蘭』を岩波書店から刊行。
昭和四七年	八七歳	十月、文化勲章受賞。
昭和五五年	九五歳	五月、未完の長編『森』(新潮)の連載開始。白杵市名誉市民となる。
昭和五六年	九六歳	六月、五七、五八『野上弥生子全集』全三巻、別巻三巻を岩波書店から刊行。
昭和五九年	九九歳	一月、朝日賞受賞。
昭和六〇年	九九歳	一月、『森』第五章『春雷』(新潮)を発表。三月、三〇日、逝去。四月三日、葬儀。

北軽井沢の山荘での野上夫妻(昭和二十年頃)

